

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月26日

協議会名: 北斗市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況 | ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む) |
|------------|--|---|--------------------|--|---|
| 株式会社新星ハイヤー | <p>運行系統名:(1) 茂辺地・石別線、(2) 上磯線①、(3) 上磯線②、(4) 大野線①、(5) 大野線②、(6) 大野線③、(7) 石別地区デマンド</p> <p>運行区間:(1) ゆうあい入口～北斗市役所、(2) 押上～上磯駅前商店街、(3) 三好会館～北斗市役所、(4) 稲里～せせらぎ温泉、(5) 長橋～総合分庁舎前、(6) 東開発～総合分庁舎前、(7) 北斗市当別全域、三ツ石全域</p> <p>運行回数:(1) 186回、(2) 50回、(3) 50回、(4) 99回、(5) 99回、(6) 99回、(7) 49回</p> <p>運賃:300円(①三ツ石～茂辺地大橋間での乗降については200円)</p> | <p>鉄道への接続を改善するため、茂辺地・石別線の運行時間を変更した。</p> <p>また、目的地での滞在時間を改善するため上磯線の運行時間の見直しを行った。</p> <p>また、具体的な行き先、乗車時間、乗降場所、乗り継ぎ情報等を掲載したオーダーメイドの時刻表カードを作成し、サポート乗車に参加した方や免許返納者へのPR時に配布したほか、モニター乗車を実施し、実際に体験してもらうなど、PRを行った。</p> | A 計画通り事業は適切に実施された。 | <p>各路線利用が低調であり、収支率は目標20%に対し9.11% (前年比-2.57pt)であり、利用が低調な路線について、ルート等について、検討する必要がある。</p> <p>C また、輸送量については、大野線①が2.7人と2人を上回ったが、それ以外の系統は2人を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茂辺地・石別線 1.5人 ・上磯線① 0.1人 ・上磯線② 1.7人 ・大野線② 0.2人 ・大野線③ 0.4人 ・石別地区デマンド 1.7人 | <p>目標達成のため、接続改善のためのルート変更や運行時間の変更をしてきたが、輸送量の目標は達成できずにいる。住民にヒアリングを行った結果から需要のある目的地を含めた運行ルートの見直しを進め、利用増を図る。</p> <p>また、大野線①以外の路線についても輸送量が2人以上となるように利用促進に向けて、モニター乗車やサポート乗車を継続するとともに報道機関への積極的な周知を行う。</p> |

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月26日

| | |
|-----------------------------|---|
| 協議会名: | 北斗市地域公共交通活性化協議会 |
| 評価対象事業名: | 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 |
| 地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性) | 北斗市は、面積397.44km ² 、人口44,302人(令和2年国勢調査)で、北海道の南端部に位置し、南部は函館湾、南東部は函館市、東部は七飯町、北部は森町及び厚沢部町、西部は木古内町に隣接している。平成18年2月1日に上磯町と大野町との合併により誕生したまちであるため、市街地が分散しており、郊外には人口減少が急速に進んでいる地域を抱えている。北斗市内には鉄道及びバス路線が存在するが、既存の公共交通で補完できない地域も存在しており、既存公共交通を軸にしながら、巡回ワゴンを運行することにより、市民の日常生活や市内各地域の実情に応じた公共交通ネットワークを形成することを目指している。 |